

美里フットパス協会（熊本県美里町）
～地域を元気にする魔法～

フットパスによる地域づくり

みさと きょうかい
美里フットパス協会

会長

ひかた かずよし
日方 和義



1. 美里町の概要

美里町は熊本県及び九州の中央部に位置する人口 10,619 人（H26.9.1 現在）、面積 144 k m²、森林が 75% を占める中山間地域です。高齢化率は 36.6%（県内 5 位）を超え、現時点でのいわゆる「限界集落」は 3 集落存在し、この状況が 5 年経過すると 30 あまりの集落が限界集落となる予測です。

当町は名前の通り美しい里山景観を持ち、農業生産については、際立った特産物はないものの、米、野菜、果樹、花卉、お茶等、豊かで幅広い生産物を有する農業地域です。

また、7 割を超える森林に関しては、そのほとんどがスギ、ヒノキの人工林で、専業としての林業を営む林家は数えるほどしかなく、手入れが入らない森が数多く存在し、近年では鹿をはじめとする獣害により、育林もままならない状況にあります。また景観的にも良くない状況が続いています。



♡の石橋二俣橋

観光面では、日本一の石段や石橋などといった観光資源、素晴らしい田園景観が残されています。ただし、訪問者はほとんど車で一時立ち寄りの観光にとどまり、滞在時間が短い状況にあるため、地域経済への波及効果は薄いと言えます。石橋や景観を活用して、滞在時間の長い着地型観光への取り組みが必要となってきますが、それらの資源が必ずしも有効利用されているとはいえませ

ん。そこで、アクセスの優位性を踏まえ、地域資源の活用により滞在時間を長くすることで経済効果を生む着地型観光の展開を図る必要があります。

2. 活動開始の背景・経緯

2010 年に、美里町商工会と町づくりの NPO が主体となって、町内の数名の有志を募って月に 1 回の地域づくり勉強会を開催していました。美里町の農産物をどう売り込んでいくか？着地型の観光プログラムを作っているのか？等と、様々なアイデアが出されました。

これまでの地域おこし活動は主にイベント型での集客で、一過性のため、イベント以外の時は閑散となる状況でした。

そのような中、メンバーの一人があるアウトドア雑誌で「フットパス」という記事を見かけ紹介したことから私たちのこの活動は始まりました。

フットパスという活動は原則として、「あらかじめ用意されたマップや道標を頼りに、歩きたい人が、歩きたい時期に、自由に好きなだけ歩く」というものでした。正に「日常化」を具現化した活動であると確信しました。また、美里町と名前にもあるように、町内にはあまり知られていない美しい風景や景観が数多く残されているので、そこを歩かせていただくことは可能なのではないかと感じました。

その勉強会において、フットパスについての世界の状況、日本の状況を調べ、日本で実施されているいくつかのフットパスの活動をベースに、フットパスの展開を始めようと決定しました。

3. 二つの主体による活動開始

活動を始めるにあたって、地域の調査とコース選定、マップの制作、道標の整備、コースの評価、等が必要であることがわかりました。当然、

その経費をどうするかという話になりました。そこで、2 年間は補助金を活用して、上記の項目をすべて行い、3 年目から独立してスタートするという目標を決めました。

フットパスは美里町の農村景観を活かした取り組みということもあり、農村景観の維持のためにフットパスを活用するという目的で、農水省の「食と地域の交流促進対策交付金」を 2011 年と 2012 年に受け、地域調査とコース選定、マップの制作を「美里町地域振興協議会」という団体を新設し取り組みました。

また、滞在時間の延長による商業機会の増加を目的として、美里町商工会が、「地域力活用新事業全国展開事業」の採択を受け、同じ 2 年間で、コースの評価（モニターツアーの開催）、道標の整備、特産品の開発とブラッシュアップ、フットパス商品の開発を実施しました。

4. 地域内への浸透

フットパスは「地図を手に自分のペースで歩くことができる」ということが基本です。コースさえ出来上がれば、ガイドツアーやイベントを行うことは比較的容易です。

私たちがやることは、歩いて気持ちの良いコースを見つけることと、関心を持ってもらえるような地図を作ることです。

すると、今までにない反応が現れ始めました。まず、話を聞いて後ろ向き意見を言う方が皆無でした。今までは何かお願いに行ったりすると、すべての方が協力的ではなく、その調整に時間と手間がかかります。しかし「ここに、素敵な歩くコースを作りたいです。」とお話すると、多くの方が前向きに話を聞いてくれます。中には「こっちの道がいいんじゃない？」と道を教えていただいたり、資料を見せてくれたり、昔の古い道の話や歴史の話を積極的に話し

て頂いたりしました。

また、囑託員(地区の代表者)さんの会合にも参加させていただきました。町全体でフットパス活動に取り組めますという話をさせていただきました。すると、いくつかの集落から「うちの地区は協力するので、コースを作ってください。」という、心強い言葉を頂いたり、地域の方の協力を得て、「よし!できる!」と実感しました。

英国のフットパスは「歩く権利の獲得」の歴史でした。最初はその考え方に共感できない部分がありました。それは何かと言うと、地域に残る素晴らしい景観は誰が維持してきたのか?ということ。特に中山間地では農業や林業が生業です。生業のために作業をしてきた結果、美しい景観が維持され、農村の風景が残されてきたのです。

私たちは英国の「歩く権利」ではなく、「歩かせていただく」という考え方をもちました。その地域を訪れる方たちが、謙虚にその意識を持つだけで、地域の皆さんとの良い関係性を維持できます。

そうして、2つの主体による2年間の取り組みの結果、10のコースができあがり、そのコースマップや、美里フットパスのオリジナルデザインの缶バッジやタオル等を製作し、販売を開始しました。



オリジナルデザインのロゴ

5. 独立運営

2012年度で補助事業が終了し、4月1日に「美里フットパス協会」を設立し、改めてフットパスによる地域づくりを進めています。

2012年度以降は、地域活動を行うNPOや、地域との連携により、運営のための人材と事務局を確保し、独立した運営をおこなっています。

地域との連携は、イベント等において、縁側カフェや食事の提供など、「おもてなし」を担って頂いています。

NPOとは事務局運営を連携しており、協会の一部業務(参加者受付、



地域でのおもてなし(軽トラカフェ)商品販売、研修受入等)を担い、協力して運営しています。

また、11月には「全国フットパスサミット in 美里」を開催しました。内容は、基調講演、パネルディスカッション、交流会、4コースのフットパスウォーキングを行い、全国から500名もの参加を得ました。

また、フットパスが魔法のように広がっていきました。近隣では、宇城市、宇土市、山都町、御船町、に拡大し、県内では菊池、玉名、荒尾地域、阿蘇地域、水俣芦北地域、人吉球磨地域に拡大しており、フットパスの一大ムーブメントが起きています。

また県外への拡大も顕著で、特に宮崎県や鹿児島県が熱心に取り組みを始めています。他にも福岡県中間市や大分県宇佐市などにも、フットパスによる地域づくりの手法が拡大しています。その、どれもが美里フットパスをモデルにするものです。

それらの拡大したフットパスを繋ぐために、「フットパスネットワーク九州」を組織して、九州でのフットパスの情報交換を活発にしています。

6. 成果

活動の成果としては次の通りです。

- 1) 参加者: 1,153名(申込みでの参加者のみ)
 - 2) 2013年度の取り組みで更に5コースが加わり15コースへ。
 - 3) 各地からの視察研修団体の受入18団体234名
 - 4) 団体ツアー: 7団体の受託
- 他にも、数字で現れない成果をご紹介します。

- ・主体的に美化に務める地域・個人が増えた。(人が来るなら美しく)
- ・地域が歩く人を歓迎する機運が高まった。(住民が声掛け)
- ・セルフウォーカーの増加。(住民からの報告)
- ・地区にフットパスコースがあることが小学生の自慢等。



地域の自主的な草刈り

7. 課題と展望

これまでの取り組みの中では大きな障害はありません。しかし、フットパスの特性を考えると、地域の理解と協力、地元自治体との一体的な推進、この2つを外すことはできません。

人々が生活する地域にコースが出来るわけですから、地域の方が歩く方々をしっかりと受け入れ、コースを歩く人々を歓迎する気持ちが必要で。これから、特に地域へしっかりと丁寧に説明をしながら、地域が「歩く人大歓迎!」となるように、ともに進めていきたいと思ひます。また、歩きに来る方たちへも地域に協力するのだという気持ちを持っていただくような啓発活動も欠かせません。

また、自治体との連携も不可欠です。フットパスはいろいろなことを巻き込んで育っていきます。私たち民間だけでは困難なので、それぞれが持つ強みを活かすことが最終的な地域の強さにつながっていきます。人口1万人あまりの小さい町だからこそ、みんなアイデアを出し合いながら進めていくためには行政が持つ調整力、情報力が必要です。

そして、それは近い将来、九州におけるフットパスの発信拠点となるためにも、しっかりとした連携をはかりたいと思ひます。



フットパスネットワーク九州へ